

第 1 章 はじめに

1 研究主題

「総合的な学習の時間」を創るための基盤づくりの研究
- 「カリキュラム開発」を考える -

キーワード

・生きる力

・教育課程と「カリキュラム開発」

・学ぶ場と学校・家庭・地域の連携

・開かれた学校

・自己評価、相互評価

・カリキュラム評価

2 研究主題設定に当たって

21世紀を担う児童生徒たちにとって「自らの興味・関心から生まれた問題意識を積極的に追究し、問題解決しようとする意欲や解決する力を身に付ける」ことが必要であり、その育成が課題であると考えられる。平成10年度に告示された学習指導要領の重要な改訂の趣旨の一つとして、各学校が創意工夫を生かして、特色ある教育活動を展開できるようにしたことがあげられる。特に「総合的な学習の時間」が創設され、教育課程の中に位置付けられたことによって、従来の教科・領域の枠組みを超えた横断的・総合的な学習がより一層円滑に実施できるようになり、弾力的な教育課程編成ができるようになったのである。

そこで、研究初年度である平成11年度は、「総合的な学習の時間」が創設された背景やさまざまな「答申」にみられる児童生徒の現状（不登校の激増、校内暴力の低年齢化と増加傾向、倫理観や社会性及び体験等の不足、規範意識の低下、心の教育の不十分さや自立の遅れ等）を共通認識した。そして、研究主題を「『総合的な学習の時間』を創るための基盤づくりの研究（第1集）」と設定し、創設の趣旨やねらいに即したこの時間の「在り方」を追究し、その成果を教育資料（平成11年度第4号）としてまとめた。

平成12年度からそれぞれの学校において新学習指導要領への移行期に入り、各学校においては、今まで取り組んできた指導計画や学習内容の検討及び取捨選択等がなされている。

つまり、「総合的な学習の時間」を含めて、特色ある学校づくりとしての教育課程をいかに創り出すかが喫緊の課題であると考えられる。

そこで、本年度は「『総合的な学習の時間』を創るための基盤づくりの研究（第2集）」として、新教育課程の全面実施に向けて、今までの教育課程編成を超える視点、すなわち「カリキュラム開発」を行うための考え方や開発のための視点を追究することにした。

各教科・領域とのバランスのとれた「総合的な学習の時間」を位置付けた「カリキュラム開発」の在り方やその手順を明らかにし、追究するとともに、その実践例・カリキュラムプラン例等をできるだけ具体的に提示することとした。

3 研究の目的

- (1) 「総合的な学習の時間」を位置付けたバランスのとれた「カリキュラム開発」の在り方やその手順を明らかにする。
- (2) 各学校において積極的な実践が行われるよう、実践例・カリキュラムプラン例等をできるだけ具体的に提示する。

4 研究の方法

- (1) 研究期間：平成11年度・12年度の2年間
- (2) 対象校種：小学校、中学校、高等学校及び盲・聾・養護学校
- (3) 具体的方法： 文献研究
実践的研究の推進
「カリキュラム開発」の視点からの先行事例の収集・分析及び調査研究
- (4) 成果発表： 教育資料として第2集の刊行
ホームページへの掲載

5 年次計画

(1) プレ年次

教育資料（平成10年度第1号）「豊かな心を基盤とした生きる力の育成」では、「生き方」にかかわるアンケートの調査結果や教師の「総合的な学習の時間」創設に対する期待感や、学校での準備状況をまとめた。また、府内の児童生徒の体験的な学習活動の状況や自己存在感にかかわる意識を分析し、「総合的な学習の時間」のとらえ方と方向性を明らかにした。また、「生きる力」と「総合的な学習の時間」の関連について考察し、創設の趣旨を始めとして基本的な理論研究を深めた。

(2) 一年次

プレ年次のまとめを踏まえ、教育資料（平成11年度第4号）「『総合的な学習の時間』を創るための基盤づくりの研究（1年次）」では、「総合的な学習の時間」の理論研究及び指導計画、事例収集、実践上の課題やその解決方法等について研究し、その成果を研修講座に生かした。

更にまた、府内の各学校において「総合的な学習の時間」の円滑な導入並びに授業づくりの基盤となるように、実践する上で課題となる事項を「Q & A」形式で基本的な考え方を示すとともに、小・中学校における具体的な実践例を提言した。

(3) 二年次

新教育課程全面実施に向けた移行期であるこの時期にこそ、「総合的な学習の時間」を位置付けたバランスのとれた「カリキュラム開発」が必要であることを明らかにし、「カリキュラム開発」の在り方やその手順等についての研究・検証を行った。

さらに、研究協力員の委嘱、関係機関との連携を踏まえ、各学校において「総合的な学習の時間」が積極的に行われるよう、実践例・カリキュラムプラン例等をできるだけ具体的に提示することを目指し、その成果を教育資料（平成12年度第1号）としてまとめた。

6 研究の方向 (各校種別)

(1) 小学校部会

- ア 特色ある「総合的な学習の時間」を位置付けた「カリキュラム開発」の在り方
 - ・学校教育目標を踏まえ、学校・地域の特色を生かした課題設定
 - ・発達段階及び年間を通じた系統性、発展性を踏まえた年間計画の編成
 - ・問題解決的な学習や体験的な学習を効果的に行うための授業や週時程の工夫
- イ 教科と関連させた「学び方」や「ものの考え方」の内容を明確にしたカリキュラム開発の工夫
 - ・「総合的な学習の時間」でねらう「学び方」や「ものの考え方」
 - ・それらの「学び方」や「ものの考え方」を効果的に身に付ける学習活動の展開
- ウ 地域との連携を踏まえた学習課題の設定と展開
 - ・地域の特色を生かした学習課題の設定
 - ・学習活動の展開における地域の教材化
 - ・地域の人材や教材の活用を効果的にするための地域連携の在り方
- エ 問題解決的な学習を追究するに値する課題の設定と展開
 - ・学習課題を効果的に展開するための課題設定と工夫
 - ・児童の興味・関心を生かし、個性や能力を伸長できるような課題設定と工夫
 - ・設定した課題を、効果的に問題追究するための学習計画作成への支援の在り方
- オ 学習活動及びカリキュラムの評価と改善

(2) 中学校部会

- ア 学校の特色を生かした「総合的な学習の時間」を位置付けた「カリキュラム開発」
 - ・学校教育目標を踏まえ、学校・地域の特色を生かした課題設定
 - ・系統性や発展性を踏まえた年間計画づくり
 - ・全教職員が一致して取り組める指導体制や週時程の展開
- イ 学習課題に基づく効果的な学習活動の展開
 - ・生徒の興味・関心、個性を生かした課題設定への支援の仕方
 - ・設定した課題を、効果的に追究する学習計画への支援
- ウ 「学び方」や「ものの考え方」の内容を明確にした学習活動の展開
 - ・「総合的な学習の時間」でねらう「学び方」や「ものの考え方」の明確化
 - ・「学び方」や「ものの考え方」を身に付ける学習活動の展開
- エ 地域との連携を踏まえた学習活動の展開
 - ・学習課題の追究に生かす地域教材の組織化
 - ・地域の人材や教材を生かすための地域連携の在り方
- オ 学習活動及びカリキュラムの評価と改善

(3) 高等学校部会

- ア 「総合的な学習の時間」を展開する上での教育課程編成の手順と留意事項
 - ・各学校の特性・特色を生かした課題設定の在り方
 - ・年間計画及び時間配分の組立方
- イ 校内推進及び指導体制の在り方
 - ・分掌・教科・各会議の役割と相互の協力体制の構築
- ウ 学習活動の在り方
 - ・学習形態及び指導の工夫
 - ・教科との関連
- エ 開かれた学校づくりの視点からの地域連携の在り方
 - ・地域の人材、施設、資源の活用
 - ・他校との連携
- オ ・評価の在り方と方法

(4) 盲・聾・養護学校編

- ア 領域・教科を合わせた指導との関連
- イ 「障害観」の変化を踏まえた「総合的な学習の時間」の理解
- ウ 先行実践に学ぶ「カリキュラム開発」
 - ・生活年齢や障害の状態等に応じた指導計画と学習活動
 - ・学習活動への支援の在り方
 - ・地域の社会資源の活用
 - ・指導体制の在り方
- エ 評価の在り方
 - ・観点の扱い
 - ・評価の記述